

すくわくプログラム推進事業実践報告書

所在地	新宿区若松町 28-36 (本園) 新宿区若松町 33-1 (分園)
施設名	フロンティアキッズ夏目坂

1. 活動のテーマ

<テーマ>

日本文化と国際理解

<テーマの設定理由>

・テーマの設定に活かした園の環境や強み

年間行事の中で、日本や世界のイベントを実施したり、園内にいる友だちや職員の出身国に興味を持つこともある。また、食育の観点から毎月日本の郷土料理と世界の料理を体験するメニューが取り入れられている。

・設定したテーマに子供の興味関心があると判断した理由

年間計画の行事の中でありがたいの気持ち（勤労感謝の日とサンクスギビングなど）や健康（四季の節目の行事）や平和（お正月やクリスマスなど）を願うことは日本だけでなく、世界でも同じような願いの行事があることを知り、子どもたちが国旗や世界地図を見ながら、日本のことと同時に世界のことに関心を持ったため。

2. 活動スケジュール

毎月

・日常的にモンテッソーリ活動の時間を通して子どもたちが、自ら世界や日本の地域に関心を持っていたので、世界地図、地球儀、国旗、絵本等を保育室に常設し、日常の遊びの中でいつでも手に取れるよう環境を整えた。

・世界の料理や日本の郷土料理を提供される日があるので、毎月その地域を知ることや給食を通して食文化への関心を広げた。

・モンテッソーリ教具や地図教材を活用し、子どもが自分でいろいろな国や地域を知ったり、見比べたり、選んだり、試したりできる時間を設けた。

・子どもたちが興味を示したあいさつや歌、国名等について、保育者が日常の会話や遊びの中で取り上げ、動画教材や外部講師を活用し英語活動を展開した。

4月…日本の郷土料理の提供によって、日本の地域に関心を持ち日本の文化に触れる。

・外国人講師による英語の時間や普段の保育の中で英語に触れる。

5月…稲を植える（日本文化に触れる）

6月…日本の郷土料理の提供によって、日本の地域に関心を持つ。

7月…七夕の会のイベントに参加することにより、日本の文化に触れる。

8月…日本の郷土料理と世界の料理に触れ、それぞれの地域に関心を持つ。

9月…日本の祝日である敬老の日を通して高齢者に対する感謝と労りの気持ちを育む。

10月…稲刈りをする。刈り入れるまでの歩みを振り返る。
世界のお祭りの一つとしてハロウィンのイベントに参加し楽しく過ごす。

11月…稲穂の脱穀、精米、炊飯の経験しおにぎり作りを行う。食への興味を育む。
勤労感謝の日とサンクスギビングのイベントに参加する。

12月…クリスマス前の飾りやお正月飾りや鏡餅作りを通して世界と日本の文化を知る。

1月…お正月を迎え日本の文化に触れる。
発表会に向けて、自分のやりたい配役などの希望を相談しながら、発表会を楽しみに練習など行う。

2月…発表会で練習してきた劇や歌、お話などをわくわくしながら発表にのぞむ。
節分の会などのイベントを通して、日本の文化を学ぶ。

3月…パン作りに挑戦する。日本や世界のパンについて学ぶ。ひな祭りのイベントに参加する。
水族館遠足を通して、日本や世界の生き物について興味を持ちその地域など国にも関心を持つ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・日本や世界のことに興味を持てるような保育室内の環境作りと食を通しての学びができるような食育活動を実施できるような計画とした。
- ・地球儀 ・ホームベーカリー ・発表用のアンプなどの機器
- ・地図 ・絵本 ・遠足に向けた準備
- ・国旗 ・稲及び植えるための道具 ・郷土料理と各国の料理の準備
- ・外国人講師 ・英語教材 ・プロジェクター
- ・日本の四季折々のイベントの準備 ・各国のイベントにまつわる準備

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・地球儀や地図を使って、場所を知り、その国の国旗にも興味を持つ。
- ・日本や各国の提供される食事を通して、その地域に興味を持つ。
- ・外国人講師が保育に入っていることで英語が身近に感じられる。
- ・稲を植え、育て、刈り入れ、食すまでを学ぶ。
- ・稲から、稲穂と藁に分け、食すだけでなく、お正月飾りに余すところなく活用できることを知る。
- ・年間行事を通して、四季折々の行事の意味などを学び、参加する。
- ・おにぎりづくりやパン作りを通して、日本や各国の食文化に触れる。
- ・発表会を通して日本や違う国のお話や歌を通してそれぞれの文化に触れる。
- ・戸外活動を通して各地域の生き物に触れる。
- ・絵本や図鑑を通して日本と各国の文化の同じところと違うところを学ぶ。
- ・一年間のまとめとして、保護者参加の発表会で英語の時間や日本とロシアの劇などを行う。

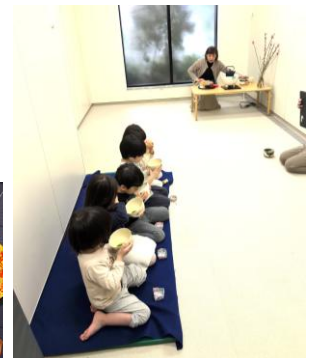
<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動中の子どもの様子、活動の際に行った保育者の声掛けについて記載してください。)

世界の国旗の教具が入り、子どもたちはさっそく興味を示していた。世界地図の中からその国を探したり、世界地図パズルと合わせて、場所を確認したりしながら、国名や国旗の模様を見比べて楽しんでいた。新しい教具をきっかけに、世界への関心が広がっている様子が見られた。

国旗の教具や地球儀にも興味が広がっている。国旗が描かれた地球儀を回しながら「この国旗はどこにあるかな？」と友達同士で国旗を探しあい、楽しみながら世界への関心を深めている。

お正月の準備として「餅つき」と「しめ縄の輪飾り作り」を行った。綿棒を使った「餅つき」ではあったが「べったんこべったんこ」と歌ったり掛け声を掛け合いながら、順番待ちをしながら体験することができた。自分の番でなくても、お友だちを応援する気持ちを込めて歌い続ける姿が見られ、みんなで楽しく盛り上がった。しめ縄作りでは、二人一組で一つの輪飾りを作った。完成した輪の穴から顔をのぞかせ、ニコニコ笑顔を見せる子どもの姿が印象的であった。今年度は幼児クラスの人数が増え各自お家への持ち帰りは難しいと思っていたが、昨年度の経験から一人ひとり持ち帰りたいとの希望があり熱心に仕上げていた。稲を植えて、お米としていただき、そしてお正月の飾りとして形を変えて楽しむまでの一年を通して、それぞれの過程でそれぞれの行程などの体験をつなげてきたことを、子どもたちと一緒に感じる機会にもなった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

本活動の振り返りは、年度末に、担任保育者間および園内職員でのミーティングを通して行った。また、日々の保育の中でも、子どもの姿をもとにクラス内で随時共有し、活動の意味や子どもの変化について継続的に振り返りを行った。

まず、年間を通した四季折々の行事や食育活動を振り返る中で、日本の文化には「感謝・健康・平和」など、子どもの生活と密接に結びついた意味があることを改めて実感した。同時に、サンクスギビングやクリスマスなど他国の行事にも同様の願いや意味が込められていることに気づき、文化の違いだけでなく共通点にも目を向けることの大切さを感じた。

また、日常的に設置していた地図や地球儀、国旗教具、絵本などの環境が、子どもの主体的な探究を大きく支えていたことが明確になった。子どもたちは自ら手に取り、友だち同士で「ここはどこ?」「この国旗見たことある」など対話をしながら興味を広げており、保育者が教えるだけでなく、子ども同士の関わりの中で学びが深まっていく様子が見られた。このことから、環境設定が子どもの学びの質に大きく影響することを再認識した。

さらに、稲作体験から食事、そして正月飾りへとつながる一連の活動を通して、「体験が点ではなく線としてつながること」の重要性に気づいた。単発の活動ではなく、継続した経験として積み重ねることで、子どもたちはより深く理解し、自分なりの意味づけをしている姿が見られた。

一方で、振り返りの中では課題も明らかになった。子どもたちの興味が広がる一方で、その関心をさらに深めるための問いかけや発展的な活動の設定が十分でない場面もあった。また、子ども一人ひとりの興味の違いに対して、より個別的に応じる工夫の必要性も感じられた。

以上のことから、今後は子どもの興味の芽を捉え、それを深めるための環境構成や保育者の関わりをより意識していきたい。また、活動後の振り返りを定期的かつ意図的に行い、職員間での共有を充実させることで、より質の高い探究活動へとつなげていきたいと考える。